

資料 17 山口県高等学校教育研究会（英語部会）研究発表資料

平成20年11月11日（火） 於 山口県立大津高等学校
山口県高等学校教育研究会（英語部会）研究発表

華陵高校の SELHi の成果と課題

山口県立華陵高等学校
教諭 梅地 哲郎

研究開発課題:

「確かな自己表現力を培うリーディング指導のための、質・量からのアプローチ及び評価方法の研究開発～高大連携による研究・分析を通して～」

1. セルハイ(SELHi)とは

Super English Language High School の頭文字。文部科学省が指定する研究指定校のことです。英語教育の先進事例となるような学校づくりを推進するため、英語教育を重点的に行う高等学校等を指定し、英語教育を重視したカリキュラムの開発、大学や中学校等との効果的な連携方策等についての実践研究を実施します。

華陵高校がセルハイの研究指定を受けるのは2回目、前回から通算すると6年目になります。

2. 前回のセルハイ指定

平成15年度からの3年間の研究指定では、英語で自分の気持ちや意見を表現できる「(1)」の養成をテーマに研究しました。具体的には、英語科を対象に(2), (3), (4), ディスカッションというコミュニケーション活動を軸にしたカリキュラムを開発しました。

3. 今回が2回目の指定

平成18年度から「(1)」を(5)と関連付けたプロジェクトを継続中です。対象は英語科だけでなく、(6)にも拡大しました。今回の研究での生徒の英語力の到達目標は「英文を読んで、表面的な情報を読み取るだけでなく、概要を(7)したり、(8)を述べたり感想をまとめたりすることができる」ようになることです。

語群:

意見, 自己表現力, スキット, スピーチ, ディベート, 普通科, 要約, リーディング

4. 華陵高校のリーディング指導の特徴

運営指導委員のロバート・シャルコフ先生(山口県立大学准教授)のお言葉を借りれば、「従来のやり方(読んで訳する)を止めた」ことです。そしてその代わりに「訳以外の方法を研究や開発し、生徒の理解を図っている」ということです。これをするために「教員が常に指導方法などについて話し合い、チームとして共通の目標に向かって指導を行っている」ことが欠かせなかった。

となります。

同じく運営指導委員の本岡直子先生(県立広島大学准教授)のまとめによれば、

- 1) 明確な目的・目標を意識した指導
 - ・Karyo Can-Do List による目標の設定
 - ・Karyo Can-Do Test による到達度の測定
- 2) アウトプットへとつなげる指導
 - ・要約や意見を述べさせる自己表現活動
 - ・グループ・ワーク, ペア・ワークにおける発信活動
- 3) 組織的な指導
 - ・ワークシートの作成とその構築
 - ・Karyo Weekly
 - ・多読プログラム Read for the Stars

5. 授業実践例

ワークシートをご覧ください。

6. 課題は研究成果の普及

研究成果報告会

- 1) 日時 11月21日(金)午前10時から午後4時まで
- 2) 会場 山口県立華陵高等学校 TEL 0833-44-1285 FAX 0833-41-5494
- 3) 内容 公開授業, ポスターセッション, 基調講演, パネルディスカッション
- 4) 基調講演 東京外国語大学大学院教授 根岸雅史先生
「高校生に求められるリーディング力とは何か
ーその養成のために我々にできること」
- 5) 参加申込み: 本日, 直接, 梅地まで。

7. おわりに

"If you wish to go quickly, go alone. If you wish to go far, go together."

--An African proverb